

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和4年3月25日（金）

9：00～11：45

場 所：佐久市役所8階 大会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員10名（現地出席5名、オンライン出席5名）

事務局（広報広聴課長・広報広聴課職員・望月支所総務税務係職員）4名

市民活動サポートセンタースタッフ 3名（会議事項（2）のみ）

事務局（5その他のところで異動による新任職員紹介 職員2名）

1 開会

2 会長あいさつ

3 新任委員の紹介

4 会議事項

（1）令和4年度佐久市まちづくり活動支援金事業の公開審査

ア 事務局より審査の流れ等について説明

審査は1事業ごとに書類審査し、審査員が所属する団体が応募した場合は、当該審査員は当該団体の審査をすることが出来ない。

審査員1人当たりの平均点数が高い事業から決定となる。

審査員1人当たりの平均点数が15点に満たない団体は、予算の範囲内であっても推薦は行わない。

審査の順位に基づき、上位の事業から予算の範囲内で支援金を割り当てる。

重点テーマに該当する事業については、評価した点数の合計にそれぞれ5点を加算する。

イ 事務局から事業概要及び委員から団体に提出した質問についての回答説明を行ない、その後、質疑応答

ウ 審査

次の順で審査

- ① 常和を元気にする復興まちづくり事業
- ② ド根性 さくっこ事業～笑顔 SaKu 体験から学びへ～
- ③ 紅雲台区50年の歴史を編む～持続可能な街づくりを目指して～
- ④ カフェ事業

会長：④と⑤は同じ団体の事業だが、ひとつの団体が2つ事業を申請するのは問題ないか。

事務局：要綱の中で制限していない。問題ない。

⑤ 大人の学び場事業

会長：事業への募集については、どのように参加者を募るか。

事務局：口コミや、④のカフェ事業に参加した親子向けに案内をする。

⑥ 旧大沢小学校魅力アップ事業

会長：この事業は年間の事業計画が資料として添付がないが、問題ないか。

事務局：事業計画の表は申込時に添付を求めておりません。添付している事業もありますが、自主的に添付していただいている。

⑦ 孤立という病を地域で改善する社会的処方実験プロジェクト

会長：地域の高齢者に参加を呼び掛けるということだが、対象者は決まっているか。

事務局：臼田地区の各戸にチラシを配布するとお聞きしている。

会長：学生への呼びかけが6月ごろになっていて、授業との兼ね合いもあるし、実施可能かどうか。

事務局：今年度は旅行までは難しいかもしれないが、お祭りの実施までをまず目指すとお伺いしており、学生さんと可能な範囲で進めていく内容となります。

委員：資料中、事業主体であるNPOの定款の写しがあるが、その事業内容の項目に鉛筆か何かでチェックがしてあるが、これは何か意味があるのか。

事務局：すみません、事務局では把握しておりません。

⑧ サクシノブカツ

会長：参加者の想定人数は、リモート市役所へのアクセス者数などを基礎にしているか。

事務局：リモート市役所とは別個の事業として、インスタグラムやツイッターなどSNSでの広告と、サクシノブカツ専用のサイトを作成して参加者を募る方法で想定できる参加者数になっている。

⑨ 親子で木もれびサロン

⑩ さく超元気フェスティバル（仮）（⑩の審査中、金澤委員は退席）

委員：審査前の書面による質疑応答で、相見積もりをとっていますか、という質問に対し、取っている、と回答しているが、回答書に添付された相見積もりの日付が、質問をした日より後の日付になっている。当初から相見積もりをとっていたのであれば、支援金の申込みと同時期の日付ではないのか。

事務局：本事業は長野県の元気づくり支援金にも申請をしており、市では相見積もりを義務付けてはおりませんが、県の手続では必ず相見積もりをするようになっているので、相見積もり自体はとっているものと推察します。それ以上のところは把握しておりません。

（全般に対して）

委員：申請団体の男女比がかたよっているように見受けられるが、均等になるように市で指導しないのか。

事務局：団体の活動目的や課題に応じた、団体それぞれのメンバー構成になっている。団体は自立的・主体的に活動しており、構成メンバーも自主性の範囲であると考えている。市としても、男女共同参画や女性活躍を推進しているので、お願いできる範囲では

そうした均衡に配慮いただくようお願いしていきたいと考える。

⇒審査終了、集計開始

(休憩 15 分程度 金澤委員オンライン再入室、さくさぼスタッフ入室)

## (2) 佐久市市民活動サポートセンターとの意見交換会

### ア 佐久市市民活動サポートセンター「さくさぼ」

運営受託団体：長野県 NPO センター

スタッフ栗津さんより R1～R3 までの実績や今後の取組について説明

(説明補助 スタッフ武者さん・佐々木さん)

### イ 意見交換

会長：センターの業務をする中で、佐久市の特徴や佐久市ならではの課題はありますか。

センタースタッフ：佐久市の市民活動の定義が、サークル活動や PTA 活動、地域貢献している企業活動なども含まれており、とても幅広くとらえている。これはとても可能性があることだと感じていて、人口も減って担い手が不足していく時代の流れの中では、本当に様々な立場の方々が連携して課題に取り組んでいかないと明るい未来が描けないと思うので、市民活動の定義の広さ、取り組む主体の余白の広さは特徴的であると思う。そういう趣味で活動していたり、できる範囲で取り組む方々が、佐久市を豊かにしてくださっていると思うし、とても財産だと思うが、一方で、それじゃあ市の事業を委託しようとか、指定管理をお願いしようか、となったときには、ある程度の組織力とか、法人格とかが必要になってくる。そこで手を挙げられるかどうか、その一段を超えられる団体がまだまだ少ないというのは感じている。全国的に見て、数年前よりはずっと NPO、非営利活動法人に対する理解が広まってきたとを感じるが、まだまだ啓発・育成が必要だと、課題として感じている。

委員：事務局にお伺いする。来年度からのサポートセンター運営委託について、受託者が決まったことは、まず最初に推進会議の委員へ報告すべきではないのか。

事務局：大変失礼しました。推進会議からもプロポーザルの審査委員として、関谷会長及び関委員に代表でご参加いただいた経過もありますので、結果について早急にご連絡すべきところでした、大変申し訳ありませんでした。

委員：センター側のパワーポイントによる説明がわかりづらかった。

2050 年問題など、孤立する高齢者が多くなっていくこれからの超高齢社会において、地域の課題に対してどのような支援をしていくか。

また、さくさぼは多様な団体と協力連携していかなければならないが、そうした団体が運営に参画できる仕組みを検討されたらどうか。

センタースタッフ：高齢者、障がい者、子育て中の親子、子どもたち、コロナ禍があらゆる人にとって逆風であるのは間違いない。その中でいかに生活を守り、居場所をつくり、つながりを保っていけるか、様々な立場のみんなで取り組まねばならない課題。地域包括の会議にさくさぼスタッフも参加しており、引き続き連携を図っていく。地域の課題として担い手不足が大きな問題である。定年が延長になり、これまで区長

など、地域で大きな役割を担ってきた世代層が薄くなっていく中で、若い世代にどのように地域の活動に参画してもらうかが喫緊の課題であり、取り組んでいきたいと考えている。二つ目のセンターの運営に関わる団体については、現在、長野県 NPO センターが運営を受けて 3 年目になるが、NPO センターの本部は長野市にあるが、さくさぼスタッフは佐久地域の人材を雇用していて、さくさぼのある佐久地域で、センターの業務を担える人材・団体を育成するという点は達成できたと思っている。現時点では、今のスタッフで佐久市独自の団体となってさくさぼを運営するかとか、ほかの団体さんへ承継するか、ということはありませんが、そういう会計処理能力があって、社会的信頼性が高くて、という団体の育成には引き続き取り組んでいく。その中で、団体が育って、さくさぼの運営に対してより良い提案を出して争えるようになれば、団体育成の成果が出たともいえるので、幅広く団体の基盤強化に取り組む。

委員：この 3 年間、自身の活動をさくさぼにすごくサポートしてもらった。活動する中で、市民活動に参加する人がとても少ないと感じている。その対策が、これからの 5 年計画の中に入っていたのはとても良かった。地域の担い手が少ないというところで、この 1, 2 年間で区に入っていくという計画もぜひやってほしいと思った。頑張ってもらいたい。

センタースタッフ：センターをよくご利用いただき、イベントにも参加いただいて率直なご意見をいただいております、ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

会長：先ほども説明の内容が理解しづらいと意見があったが、協働という言葉自体が理解されにくいと感じている。また、用語の使い方について、一般の市民の方に伝わりづらい部分があると思う。表現の仕方も工夫していただくといいのかなと思う。

センタースタッフ：ご意見いただいたとおり。「協働」なんだけど、「協働」と言ったとたんにみんな引いてしまう部分がある。「みんなで取り組むまちづくり」とか、「パートナーシップ」とか、どういう柔らかい言葉で置き換えていけるかというところは、私たちも引き続き考えていきたいと思う。必ずしも毎回、この「協働」という二文字を使う必要はないと思っている。それをより幅広い方々に理解していただける言葉に置き換えるというのは意識して取り組みたい。ぜひアイデアがあれば教えてください、皆様のお知恵を借りながら。

会長：カタカナ言葉にも気を付けていただくとよいと思う。

センタースタッフ：承知しました。

委員：今年度は今日までこのような推進会議とサポートセンターとの意見交換の場がなかったが、来年度以降はどうなっているか、事務局のほうでどう予定しているか。

事務局：今年度も 9 月に意見交換を予定していたが、コロナの影響で書面開催となった。来年度以降は、第二次の協働計画においても計画の進捗管理のところで推進会議とセンターが連携することが明記されているので、最低でも年に 1 回は必ずこうした場を設ける。できるだけ多く意見交換の場は設けていきたい。そのほか、センターの取組についても、委員の皆様にご連絡できるようにしたいと考えている。

委員：今日のプレゼンの資料を、今度ホームページにのせてもらえないか。またよく

見て勉強したい。

センタースタッフ：さくさぼが何をしているかわからないとよくご指摘をいただく。

どうやったらわかりやすく伝わるか、機関紙・ホームページ・SNS あらゆる方法で試行錯誤している。ご意見いただいたように、このままだと協働にしる、カタカナ言葉にしるわかりづらいと思うので、わかりやすい言葉に置き換えることも含め、さくさぼが何をしているかをホームページ上へ発信できるよう検討させていただく。少しお時間をいただき、4月中には公開できるように検討したい。

⇒意見交換終了、さくさぼスタッフ退室

## 【令和4年度佐久市まちづくり活動支援金事業結果発表及び講評】

### 集計結果について事務局より発表

申請のあった10事業のうち、審査員1人当たりの平均点数が基準点数以上となったのは、9事業であった。

推進会議より基準点数以上となった9事業について、市へ推薦する。

基準点数未満の1事業については、市へ推薦しない。

現時点で支援金の予算額に余裕があるため、2次募集を5月中に実施する予定。

### 講評（会長より）

今回の審査は継続事業が4件、新規事業が6件だったが、継続事業については、1回目2回目の事業の概要とどんな意見があったかについても資料を追加いただきたい。委員の改選が10月にあったので、余計わかりづらいと感じた部分もあるのではないかと思う。それから、先ほども審査の中で質問させていただいたが、詳しい事業内容と活動計画が提出されている団体と、そうでない団体とがあった。計画表については、未定のものはないという状況もあるかと思うが、やはり公金を支出する以上は、きちんと具体的な計画をきちんと作っていただくほうが良いと思うので、申請時に不確定だった部分は、改めて決まったところで計画を出していただくなどの対応をしていただきたい。もう一点、申請する事業は単年度の事業でもよいという形だが、市民活動においては継続性が重要である。それぞれの団体が活動を継続していけるように何か盛り込んでいけるように、審査の中でも考えていければと思っているので、委員の皆様からもアイデアをいただければと思う。全体としては、残念ながら一件、基準点に満たなかったが、様々な活動があるということを知り、良い審査になったと思う。

## 5 その他

（事務局から）

- ・第二次佐久市協働のまちづくり計画について、委員を始め関係各所の皆様のご協力のおかげで年度内に策定できた。現在冊子を印刷中であり、完成次第、委員の皆様へお届けする。
- ・異動職員あいさつ

(委員から)

委員：先ほどの支援金の審査結果について、⑩の事業だけ平均点の出し方が違うのでは。

事務局：⑩は、委員が申請者の場合は審査に加われないため、金澤委員にご退席いただいた。そのため9人での審査になっている。

会長：申請した団体の当事者は自分で自分の事業を審査するのはおかしいので、審査に加われないという規定になっています。

委員：その事業が基準点未満ということだが、補助金が出るのか。

事務局：不採択となり、支援金が出ないということになる。

委員：技術的な問題ですが、オンラインで参加した側では、本社会場のマイクでの発言がほとんど聞き取れません。これからもリアルとオンラインの併用での会議をする機会があると思うので、その点を技術的になんとか改善しないと、情報の共有ができない会議になってしまうと思います。

## 6 閉会

副会長：オンラインでの取組は非常に意義があった。市民と行政と、サポートセンターと、意見交換できてとてもよかった。こういう機会に、意識のすり合わせをしながら取り組んでいければと思う。オンラインの技術面も改善していきましょう。転出される事務局の皆さん、新天地でもご活躍を期待しています。

以上で、本日の協働のまちづくり推進会議を閉会します。お疲れ様でした。